

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	砂防課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	砂防課長 阪本 哲 (課長補佐兼防災係長 太田 吉哉)	内線	4459 (4467)
------	-----	---------------------	--------------------------------	----	----------------

事業種目	地すべり対策事業	事業採択年度	S45		現計画	再評価時点
事業名	地すべり対策事業 〔高坂地区〕	着工年度	S45	総事業費	16.5億円	10.2億円
		再評価年度	H10	内用地補償費	0.1億円	0.06億円
事業区間	美方郡村岡町高坂			完成予定年度	H17	H15
所在地	美方郡村岡町高坂			進捗率 (内用補進捗率)	87%(87%)	54%(54%)
事業の目的				事業内容		
<p>当地区の地すべり被害想定区域には人家及び県道・河川等公共施設があることから、地すべり災害を未然に防止し、県民の生命財産と公共施設の保全を図ることを目的としている。</p>				<p>地すべり防止区域面積 37.89ha 集水井工 19基 集水ボーリング工 7,300m 横ボーリング工 3,800m 護岸工 1,200m 杭工 230本</p>		
進捗状況	<p>当地区は、すり鉢状の地形に比較的小規模な地すべりブロックが多数分布するという特徴を有している。 対策にあたっては、地下水排除工及び区域の中央を流れるニゴ谷川の護岸工を中心に対策を進めており、相互に関連しながら活動を繰り返すという地すべりの特性から、活動特性を見極めながら工事を進める為に長期間を要している。 更には前回評価以降、台風の出水によりニゴ谷川沿い地すべりブロックの活動が活発化し、追加対策を計画実施し集中投資を図ったが、現在87%の進捗である。〔追加工種〕 集水井工3基、集水ボーリング工1,100m、横ボーリング工300m、谷止工22基、杭工20本</p>					
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	依然として、県道・河川に隣接する未着手地すべりブロックが残っている為、引き続き事業を実施し、地すべり災害を未然に防止する必要がある。					
(2)有効性・効率性	<p>多数の人家、公共施設等を保全 (直接保全対象) 人家：22戸、県道：150m、町道：1,400m、河川：200m 耕地：21ha、公民館：1棟 事業実施に対し地元協力体制は整っており、円滑な事業執行が可能である。</p>					
(3)環境適合性	対策工の大部分が地下埋設物である為、環境に与える影響は少ない。					
(4)優先性	当地区は、非常に広大な地すべり地であり順次対策工に着手しているが、まだ未着手の地すべりブロックが残っており、放置すれば災害発生の恐れは依然として強い為、早急な対策が必要である。					
再々評価の結果	継続	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。			